

2019年発表モデルや日本先行発売モデル、そしてハナジマ限定モデル……

最新CORUMがハナジマに 続々入荷



アドミラル レジェンド42 クロノグラフ

A984/03797

'90年代に日本で大ヒットした「ガンブル」の復刻、というか「復活」版。2018年はベゼルのみガンブルのコンビタイプだったが、2019年モデルはケース全体にプレスレットもガンブルで統一。日本市場で先行発売されていて、海外からの問い合わせもすでに多いらしい。SS。自動巻。89万6400円



アドミラル レジェンド42

A395/03856

42mmケースのニューモデル。アドミラル レジェンドシリーズのアイデンティティである国際海洋信号旗のアーチャーマーカ―は色彩まで忠実に再現されていて、コルムのオールドファンには懐かし、若い人には新鮮に感じられるだろう。2019年5月発売。SS。自動巻。59万4000円



アドミラル レジェンド42 クロノグラフ

A984/02984-B

世界でハナジマのコルムショップでしか手に入らないA984/02984ベースの「ハナジマ別注」モデル。カタログ掲載のA984/02984はレザーストラップだが、別注モデルはローズゴールドのベゼルに合わせてプレスレットもローズゴールドとSSのコンビ。SS×K18PG。自動巻。199万8000円



アドミラル レジェンド42

A395/03818

日本画の中でも特に水墨画にインスピレーションを得た新作。ケースはブラックPVD処理がなされている。正式なペットネームは「SUMI」つまり「墨」だ。世界で100本のみの限定品。SS。自動巻。72万3600円



アドミラル レジェンド45
クロノグラフ

A132/03931

「新生」がテーマの2019年発表モデル。キーカラーのブラックとホワイトのツートンカラーでまとめている。またダイヤルには升(マス)をイメージしたエンボス加工の細工が施されている。ケースサイズは45mm。2019年7月入荷予定。Ti。自動巻。145万8000円

A132/03930

今年発表された「新生」がテーマのモデル。華やかで暖かみのあるローズゴールドとホワイトダイヤルの組み合わせは上品。チタンやチタンブラックの硬質感も悪くないけれど、ゴールドのやわらかな質感もいい。2019年7月入荷予定。K18PG。自動巻。313万2000円

A132/03876

上のブラックダイヤルタイプ(A132/03931)とは逆カラーの「新生」モデル。ホワイトメインのメインダイヤルにブラックのインダイヤルの組み合わせは、視認性の上ではメリットがあるかも。2019年7月入荷予定。Ti。自動巻。145万8000円

CORUM
LA CHAUX-DE-FONDS · SUISSE

**注目のブランド「コルム」
2019年のテーマは「新生」**

薄着の季節ということもある。このころ街に出るとやや大きめ12角の腕時計をしている人が多いような気がする。こもりと盛り上がったドーム風防の腕時計もけっこう目立つ。前者がアドミラルレジェンドで、後者はバブル……どちらもコルムの主力シリーズだ。

もちろんこれは取材班の個人的な印象だけど、コルムの人気を裏つけるデータも最近になって入手した。ある調査ではコルムの売り上げが3倍増になったのだとか。どうやら取材班の実感も間違っていないらしい。

そんなコルムの2019年〜2020年モデルの発表期が終わり、いよいよ美機が日本にも届きはじめている。

今年のコルムは「新生」がテーマ。折しも日本では平成から令和へと元号が切り変わったばかりだけど、

「日本の元号についてはあくまで偶然ですが、時代の切り変わり時に、新たな良い腕時計を提案したいというコルムの気持ちだが、今回のテーマになったのだと思いますね」

コルムの関係者のひとりだが、そう話している。そして新生のテーマカラー、いやキーカラーに選んだのがホワイトとブラック。右ページの3本のアドミラルレジェンド45や水墨画にインスピレーションを受けた「SUMI」の別名があるアドミラルレジェンド42(上の右)は、「新生」のイメージを引っ張るモデル。時代の変わり目に、先頭をきって飛び出した新時代の高級時計といったところだ。

CORUMの新作発表と販売会を ハナジマ内コルム・ショップで開催

2019年6月10日(月)~7月31日(水)

期間中にハナジマ2階のコルム・ショップで、コルムの腕時計を購入すると

- ＜特典その1＞
現金一括払いの場合
15%相当のハナジマ商品券
(有効期限なし)
- ＜特典その2＞
コルム純正ベルト1本プ
レゼント又はメーカー保証
1年延長サービス
(通常メーカー2年間保証
のところを3年間に延長)
- ＜特典その3＞
コルム社特製トラベル
ポーチを進呈
(腕時計1本収納可能)

CORUM Fair



ハナジマ
花島素人 さん

私自身、40年来のコルムの大ファンです。
私が初めてコルムを手に入れたのは70年代の終わり頃です。
コルムの腕時計は、すごく心を惹かれるブランドでした。その
時のコルムですか……もち
ろん今も大事に使っていま
すよ。その後もコルムの腕
時計を買い足して、現在で
は5本ほどコレクションをし
ています。立場上はコルム
正規販売店のオーナーで
すが、心情的にはコルムの
熱心な応援団長のつもり
です。



ハナジマ
〒132-0025
東京都江戸川区松江7-11-13
TEL:03-3652-8740
http://www.hanajima.com/
営業時間/10:00~19:30
定休日/火曜日

ゴールデンブリッジ

B113/03859
チタンケースのB113/03832が「新機軸」的
な興味を抱かせる一方で、このゴールデンブリ
ッジは「王道」的な魅力がたっぷり。ピンクゴールド
系の華やかなローズゴールドケースの中で、独
特のムーブメントがまるで浮遊しているよう。ケー
スには選りすぐりのダイヤがびっしり。ケースサイ
ズは51mm×34mm。2019年7月入荷予定。
K18PG×ダイヤ。手巻。799万2000円

ゴールデンブリッジ

B113/03842
B113/03859と同時公開の最新レディースモ
デル。ケースサイズは43.99mm×21.30mmで
メンズタイプのB113/03859よりもふた回りほ
ど小さいが、同じオーラを放っているようだ。カッ
プルで、または夫婦で着けられたら……。選ばれ
しおふたりのための腕時計だ。K18PG×ダイヤ。
手巻。540万円

「ハイエンドモデルに使用するダイヤマ
ンドなどの宝石類も、実にきれいですね
腕時計とともに宝飾の老舗でもあるハ
ナジマの社長の審美眼に、コルムの宝石
はかかっているというご感想。
「値段はかかっていますが、美しくない残念な
腕時計が多いですよ」
花島社長は、コルムは唯一無二の良
い時計メーカーだと、言葉に力をこめ
る。ブーム再来の兆しもヒシヒシと感
じるし、この夏はハナジマのコルム・
インショップに足を運んでいるのもい
いかもれない。



ゴールデンブリッジ ラウンド 43

B113/03832
ゴールデンブリッジのシ
リーズでチタンケースを
採用したのは初めて。
「究極のドレスウォッチ」
というこれまでのゴール
デンブリッジのイメージ
から抜け出して、とてもカ
ジュアルに生まれ変わ
った。ケースサイズは
43mm。入荷は2019
年7月の予定。Ti。手巻。
367万2000円



A082/03779
厳密に言えば天然素材のマザーオブパール(蝶貝)は、同じ物
はふたつとない。しかもA082/03779はマザーオブパールをさら
にクラッシュして貼り合わせる細工だから、同じモデルでも1
本1本まったく表情が異なる。ベゼルには合計約1.5ctのダイ
ヤモンドをセット。2019年モデル。SS×ダイヤ。自動巻。ユニ
セックス。140万4000円

アドミラル レジェンド38



A082/03922
38mmユニセックスタイプの新作。A082/03922はチタンケ
ース/ベゼルにダイヤモンドをセット。「新生」のキーカラーのホ
ワイトを基調にしている、ダイヤルには「升」の模様を採用
している。2019年7月入荷予定。Ti。自動巻。ユニセックス。
113万4000円



バブル47

L771/03904
ダイヤルは昔の戦闘機のノーズアートがモチーフ。リュース
ー体のプッシュボタンでスタート/ストップ/リセットを操作するワン
プッシュクロノグラフ。3時と9時位置のインダイヤルの針は双
発のプロペラをイメージ。2019年8月入荷予定。世界限定
88本。Ti。自動巻。99万3600円



L407/03946
ケースは47mm径のラージサイズ。さらにサファイアクリスタル
風防は8mm厚のドーム型。ダイヤルはリボルバー型の拳銃が
モチーフで、リューストッパをプッシュするとシリンドラーが回転す
る。2019年モデルは1発だけこめられた葉巻ようデザインにダイ
ヤモンドを11粒セット。世界限定88本。入荷予定は2019年8
月になる見込み。Ti。自動巻。164万1600円

老舗の時計・宝飾店が
コルムを推す理由
「コルムの魅力ですか……。いろいろ思
い浮かびますが、まずいちばんに優れて
いるのは、やはりデザインですね」
ハナジマの花島社長は、かつてコルム
のアドミラルが日本で大ブームだった時
代、コルムの洗礼を受けた。
「奇抜という表現は少し違うのですが、
コルムのような時計というのは、他には
なかったんです。しかもカッコよかった
ですね。国際海洋信号旗をアウォーマー
ーに使うアイデアも新鮮で、いい意味で
賑やかな腕時計ですね」
花島社長は当時のアドミラルを今でも
たびたび着けている。
「定期的なメンテナンスはしてはいたすけ
れど、30年以上も前に買ったアドミラル
は、今でも元気に順調に動いていますよ。
技術的にはスイスの時計産業の伝統をし
っかり受けついで、あくまでもまじめに
時計作りをするブランドです」
花島社長が言う優れた技術とは、ム

ところでコルムブランドの腕時計は、
全国20数カ所の正規店で購入すること
ができる。
東京・江戸川区にあるハナジマは「正
規店のひとつであるばかりか、店内に
いわゆるインショップを展開するお店
だ。人気シリーズのアドミラルやバブル
はもちろん、「究極のドレスウォッチ」と
言われるゴールデンブリッジシリーズや
ヘリテージの超高額シリーズも扱って
いる。つまりコルム社のフルラインナップ
がハナジマのインショップには揃って
いるのだ。